



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

成績表

8月に学年度末を迎えたマダガスカル。先日訪問した学校ではちょうど成績表を生徒に配布中でした。全校生徒が校庭に並び、担任の先生に名前を呼ばれたら前取りに行くというスタイル。内容が気になってザワザワするので何度も先生に注意されます。全員に配布するので待ち時間が長いので、成績表を頭に載せて日よけにしている子も。全部終わると、皆が駆け出して帰っていく姿が微笑ましかったです。



ズズルがたくさんあるアンズズルベ

～今更ですが任地の名前の由来を紹介します～

マダガスカルには「アン」から始まる地名が多く存在しています。私の活動先も、アンツリンジャナ、アンブイベルマ、アンブディフィアカラナ、アンカディブリー、…と言った具合です。それもそのはず、「アン」は英語でいう場所を示す前置詞 in や at と同じような意味です。アンズズルベの名前を分解すると、

アン(場所を示す前置詞)+ズズル(植物の名前:写真上)+ベ(たくさん)

ということで、「ズズルがたくさんある場所」といういかにも田舎風の名前です。(ちなみに首都アンタナナリヴは「1000の町」の意味です。都会ですね！)現在は水田を増やすためにズズルが刈り取られ、昔ほど多くはないということですが、

しっかり生活に密着しています。写真左は食糧などを入れるカゴ、写真右は床に敷いたり、米や豆を乾燥させるために庭で日干しする時に敷くゴザです。



写真左は食糧などを入れるカゴ、写真右は床に敷いたり、米や豆を乾燥させるために庭で日干しする時に敷くゴザです。

ユーカリもたくさんあるアンズズルベ

～生活にかかせない外来種を紹介します～

アンズズルベにはユーカリの木も多く存在しています。ただしこちらは外来種。コアラの食事として有名な通り、**オーストラリアの原産**です。植民地時代に植林が始まったと言われています。何故かという、とにかく成長が早く、柔らかくて燃料として使いやすいのです。農村ではほぼ100%料理に薪を使いますが、その多くがユーカリです。薪だけでなく炭にも加工され、町で販売されています。切り倒されたユーカリを見ていると、「こんなに木を切っちゃって…」と悲しい気持ちでしたが、切り株から芽吹き、そして雨季に一気に成長します。その成長スピードを目の当たりにしてから、**計画的に使い、植林を続けられれば、燃料材確保のためにこれ以上貴重な**

来種の伐採をしなくてすむと理解しました。計画的に使いながら緑いっぱいのアンズズルベであってほしいと思います。

